

旧街道ウォーク★337

古代東海道の駅路を歩こう！ 27 (松 庵～妙正寺～中 村～向 原)

日 時 ■ 2008年 9月28日 (日) 11:00～17:00頃

集 合 ■ 中央線(総武線・東西線直通)／西荻窪駅(南口の小さな広場)

※快速は止まりません。各駅停車で新宿から約15分、荻窪・吉祥寺から3分です。

コース ■ 松 庵(西荻窪駅)～荻窪八幡～妙正寺池<昼食休憩>～鷺 宮～中 村～練 馬～桜 台～
江古田～向 原(千川駅)<街道ルート約10km>

その他 ■ 雨天の場合は延期します(日程未定)。判断がつかない場合は、主催者までご連絡下さい。

連絡先 ■ 大竹 亮(旧街道ウォーク代表、NPO全国街道交流会議理事)

■今回の活動について

武蔵国の古代東海道を、武蔵国府(府中)から下総国府(市川)に向けて、前回より4回で歩き始めましたが、今回はその2回目です。まず、松庵から北東に向かい、善福寺川を渡って荻窪八幡を経て妙正寺池(妙正寺川の水源)に至ります。古代・乗沼駅(天沼に比定)の場所は正確にはわかっていませんが、この付近にあったとされています。その後、引き続き北東へ向かい、中村で東に向きを変えて後の千川上水路(尾根筋)に沿って進み、練馬、江古田を経て向原に至ります。全体として、川の刻む谷筋を避けつつ台地上の平坦な道を通して、最短距離で豊島駅(西ヶ原)を目指しており、古代道の特徴が伺えます。

なお、近年では発掘や研究が進んでいるものの、古代の道筋を正確に明らかにすることは困難です。ここでは、古代道の特徴を考慮しつつ、現在の道に近似して歩きます。このような古代官道推定コースは、江戸時代の街道とはその性格や趣きが異なりますが、新しい発見があるはずですよ。ふるってご参加下さい。

* * * *

■古代の道について

古代官道：奈良・平安の中央集権国家時代には、都から全国に向けて7つの「官道」が整備されました。約16kmごとに駅家が設けられ、幅員6～12mの立派な側溝付舗装道路がほぼ一直線の最短距離で各地の国府を結んでいたとされています。従来は記録文書から推定するしかありませんでしたが、近年では各地で発掘等による発見が続き、その実態が判明しつつあります。

古代東海道：都から海沿いに関東に至る行政圏で、官道の名称でもあります。古代東海道の道筋は時代によって変遷し、初期の道筋は、三浦半島から房総半島へ東京湾を渡っていました。これに対し、相模国府(平塚)、武蔵国府(府中)、下総国府(市川)を経て常陸国府(石岡)へ至っていたのが中期の道筋です。当会では、1999年～2001年にかけて初期と後期の古代東海道の一部を歩いていますが、今年は中期のルートを探索しています。

■沿道の見どころ

善福寺川●善福寺池(上池、下池)を源流とし、中野富士見町付近で神田川に合流する。武蔵野台地の中を蛇行し、中流域では深い谷を刻む。川沿いの緑や桜並木が美しい。

荻窪八幡●青梅街道に沿って井草八幡宮と並ぶ古社。広い境内には樹木が茂り、歴史の風格を感じさせる。

妙正寺池●妙正寺川の水源。妙正寺川も武蔵野台地を蛇行し、深い谷や高い崖などダイナミックな地形を創って流れ、新宿区落合で神田川に合流する。

千川上水●玉川上水を練馬関町で分水し、神田川より北側の江戸市街に配水した上水路。尾根筋を直線状に通っており、現在は暗渠化されているが、広い舗道や緑道に活用されている。

鎌倉街道●今回も南北に走る多くの鎌倉街道と交差する。妙正寺付近、中村、そして最後の向原である。